

第88号議案 「令和3年度古賀市一般会計補正予算（第6号）について」賛成の立場で討論します。

今回の補正予算は5億9494万8千円の増額補正です。

歳出では、民生費が4億4817万3千円、総務費が4266万9千円と大きな割合を占め、民生費の中でも障がい者福祉費が2億1110万9千円となっています。

歳入では、民生費国庫負担金の9828万4千円、臨時財政対策債の3億5700万9千円が大きな割合を占めています。

全体的に見て、市民の命と健康を守り、福祉の向上を図るうえで必要かつこの時期の適正処理を含む補正であると認められることから原案に賛成します。

個別事業について3点に絞り述べます。

個別事業の特徴の第1は、3回目の新型コロナワクチン接種に関し、債務負担行為補正と1570万6千円の補正が計上されたことです。今回の補正の最大の特徴と言えると思います。新型コロナウイルス感染症から市民を守るために必要不可欠な補正です。

執行にあたって、ワクチン接種予約における混乱を最大限回避すること、医療従事者の先行接種は1月下旬までに終了すること、ワクチン接種の間隔を可能な限り前倒しし第6波、オミクロン株への対応に万全を尽くすことに留意されることを求めます。

個別事業の特徴の第2は、A Iオンデマンドバス実証運行に向けて車両3台の購入費1710万円が計上されたことです。2022年10月に開始予定の実証運行が確実に実施できるよう、納車期間を見据えて購入費を計上したことは評価できます。

執行にあたって、地域住民の声を十分把握し、乗ってもらい、暮らしに役立つオンデマンドバス運行をめざすこと、中長期的にオンデマンドバスの運行を定着・拡大し路線バスの赤字補てんを削減することに留意されることを求めます。

個別事業の特徴の第3は、体成分分析装置4台の購入費433万4千円が計上されたことです。骨密度測定器と併せて、市民の健康を守り、高血圧や糖尿病など生活習慣病予防に生かせるツールを確保する意義は大きいと言えます。また健康づくり推進員等の活躍の場が広がるなど多面的な効果が期待されます。特にコロナ禍では基礎代謝の低下や筋肉量の減少が進行していると言われています。この時期にこそ自分の体の状態を知る機会が増えることは有意義だと言えます。1年間に最低2回は測定し、運動や食の改善効果をデータで知ることが行動変容をより確かにもたらしめます。

執行にあたって、補正可決後速やかに購入し活用開始すること、出前講座、特定保健指導、イベントに加えサンコスモやリーパスプラザで気軽に必要な時に測定できる機会を保障することに留意されることを求めます。

以上については所管の委員会でフォローしたいと思います。

今回の補正予算において、インキュベーション促進委託について大綱質疑しました。管理運営費は、3月定例会時点では1969万円の予算額以内を想定しているとの説明でしたが、今年9月1日に株式会社SALTと契約した内容では2689万円と720万円増となっていたからで

す。

答弁では、インキュベーション施設PR媒体作成委託として720万円を計上していたが、両業務を一括で発注することがより効果的であると判断し、予算を流用して対応したとのことでした。

また、3月議会でのインキュベーション促進委託の収支見込では5年間の市の実質負担試算は2259万8700円でした。しかし、9月1日に契約したSALTの収支見込計算書では7792万円となり、その差は5532万1300円、3.4倍に膨らんでいました。

答弁では、事業者は、開始年度の見込みを厳しく見ている。この事業の目的である交流人口の増加や新たなビジネス創出からこの見込みを適切と判断し契約したとのことでした。

数字を厳しくチェックしないと変更点を発見できない、聞かないと実態が分からないということが判明しました。将来の財政負担についても見通しの甘さが判明しました。千鳥苑や市民体育館の移転・廃止を巡って市長は財政負担などまちづくり全体との連動を強調していますが、利用者を中心に不安や反発が広がっています。

行財政運営において、透明性を高めること、すすんで説明責任を果たすこと、この点は強く指摘しておきたいと思います。

以上、今回の補正予算の評価と執行上の留意事項を述べ討論とします。